OiBokkeShiの集大成となる新作公演「認知の巨匠」の上演

「老いと演劇」OiBokkeShi

活動の目的

和気町の高齢化率は40パーセントを超し、日本全体の高齢化率を上回る。世界に類を見ないスピードで超高齢社会を突き進むにあたって、地域住民には価値観の転換が求められている。現代社会ではタブー視されがちな「老い」「ボケ」「死」と向き合うことで、「人間とは何か？」「生きるとは何か？」「コミュニケーションとは何か」といった根源的な疑問と向き合うことができる。「老い」「ボケ」「死」の深みを通して演劇作品を創造し、地域社会に「老い」「ボケ」「死」を受け入れる文化を創出する。

活動の内容及び経過

これまで5年間の活動で6本の演劇作品を作ってきた。全作品に出演している俳優・岡田忠雄は93歳。認知症の妻を在宅で介護する家族介護者であるが、年々、身体能力が低下してきており、昨年は脳梗塞を発症し1ヶ月間入院した。幸い後遺症はほとんどなく、退院後は自宅に戻り、現在は自身も介護サービスを利用しながら妻と二人で生活している。

「舞台が命」と宣言する岡田は、これから先も俳優を引退することは考えず、むしろ老いや死の問題を演劇と結びつけることで乗り切ろうとしている（入居予定の介護施設での演劇上演、生前葬としての演劇上演等）。

岡田との芝居作りを通じて感じたことや気づきを演劇作品に詰め込み、OiBokkeShiの集大成を作ろうと考えた。これまでの作品に出演した俳優に声をかけ、4月から新作公演に向けたWSを実施。出演者は、和気町の住民、俳優、介護職、福祉用具専門員、家族介護経験者、高齢者など9名。

岡田は、ここ一年で足腰が弱り、自転車に乗ることができなくなった。近所のスーパーへ買い物に行くのが困難な状況となり、劇団員が交代で買い物の支援を行なった。演劇活動を通じて劇団員が岡田を介助をする風景が見られるようになり、そういった劇団員なのかヘルパーなのか分からない人間関係をそのまま作品のモチーフとした。

11月23日・24日にENTER WAKE BASE（和気町）にてワーク・イン・プログレスとして「認知の巨匠」上演。来場者は二日間で134名。

活動の成果・効果

東京、大分、熊本、三重など、県外からの来場者多数。来場者の関心は、高齢者、まちづくり、医療・介護、舞台芸術等さまざま。以下、公演アンケートより。

「世で言われている認知症の枠を破り、いずれ誰でも迎える“老い”について、楽しく考えながら、時間が過ぎていました。岡田さんの迫力の演技に、これから80代を生きる力をいただきました」

新聞、テレビ、インターネットニュースなど多くのマスメディアに取り上げられる。

これまでの集大成的作品ということで、上演時間は2時間30分。主演の岡田は2時間出ずっぱり喋りっぱなしの役であったが、アドリブも交えながら見事に演じ切った。この5年間、実生活ではできなくなっていくことが多くなってきているが、舞台の上ではできることが多くなってきている。好きなことを続けることで老いを明るく生きる姿を、舞台・メディア等を通じて発信することができた。

今後の課題と問題点

年々、活動の輪が広がってきており、ワークショップや公演の機会が県内外で増えてきている。岡山を拠点に活動をさらに広め、深めるためにも、劇団として体制を整えていくことが課題となっている。

また、公演やワークショップに生活者がさらに関わってもらえるようなアプローチを模索している。公共ホール、自治体、病院、介護施設などと連携し、ワークショップのプログラム開発や、演劇作品の製作ができたらと考えている。

●代表者：菅原直樹　●所在地：勝田郡奈義町久常
●TEL：090-8045-5175　●E-MAIL：oibokkeshi@gmail.com
●URL：http://oibokkeshi.net
●設立年：2014年　●メンバー数：6名